

# 柏崎市の環境

—令和4(2022)年度版—



柏崎市谷根に咲くハナモモ



柏崎市

# 柏崎市の環境 -令和4(2022)年度版- 目次

## 柏崎市環境基本計画 第3次計画 令和3(2021)年度報告

---

基本情報・基本目標・取組の方向性	1
基本目標1 地球温暖化対策の推進	2
基本目標2 資源の有効活用	5
基本目標3 美しい自然と生活環境の維持保全	8

## 柏崎市地球温暖化対策実行計画 令和3(2021)年度報告

---

第1章 区域施策編(市域の温室効果ガス排出量)	14
第2章 事務事業編(市の事業からの温室効果ガス排出量)	21

※柏崎市地球温暖化対策実行計画は令和4(2022)年1月に改訂しましたが、  
今回の柏崎市の環境では、改訂前の数値目標を引用しています。

## 環境マネジメントシステム(かしエコ)編 令和3(2021)年度報告

---

1 柏崎市の取組	22
2 組織図	22
3 環境取組方針	23
4 環境目標	24
5 実績	25
6 その他の実績	27
7 市の事業における環境活動の評価	28

## 柏崎市環境基本計画 第3次計画 令和3（2021）年度報告

### 【基本情報】

計画期間	令和元（2019）年度～令和10（2028）年度
基本理念	健全で恵み豊かな環境を保全し良好な状態で将来世代に継承する
望ましい地域像	自然と人の営みとの調和 ー現実を見つめ、理想を求める柏崎ー

### 【基本目標・取組の方向性】

基本目標	取組の方向性
1 地球温暖化対策の推進	(1)温室効果ガス排出量削減に向けた取組の推進
	(2)温暖化対策に関する意識の醸成
2 資源の有効活用	(1)廃棄物の発生抑制・再使用・再生利用(3R)活動の推進
	(2)廃棄物の適正処理の推進
3 美しい自然と生活環境の維持保全	(1)美しい自然環境の維持保全
	(2)不法投棄の防止と環境美化の推進
	(3)公害防止対策の推進



緑のカーテンプロジェクト

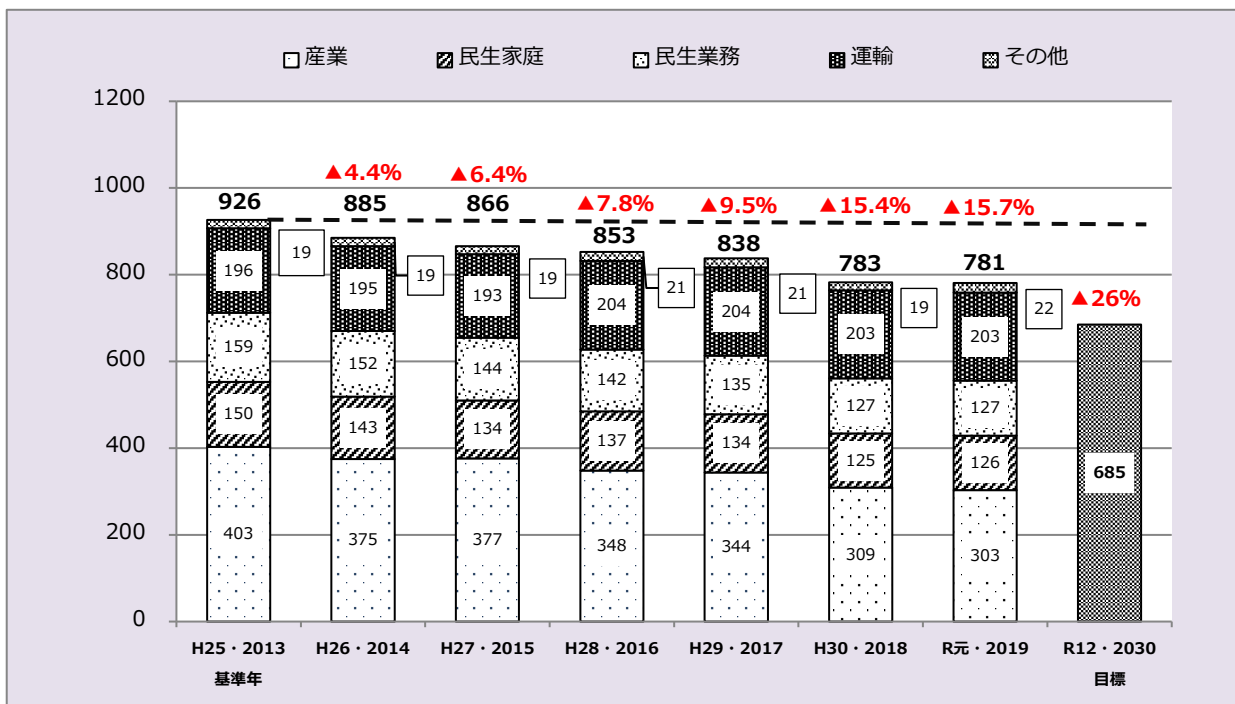
●基本目標1 地球温暖化対策の推進

取組の方向性(1)温室効果ガス排出量削減に向けた取組の推進

【目標指標】温室効果ガス排出量

基準年度値	目標値	実績	前年度実績
H25(2013)年度	R12(2030)年度	R元(2019)年度	H30(2018)年度
926 千 t-CO <sub>2</sub>	685 千 t-CO <sub>2</sub> 基準年度値▲26%	<b>781 千 t-CO<sub>2</sub></b> 基準年度値▲15.7%	783 千 t-CO <sub>2</sub> 基準年度値▲15.4%

※国や県が公開しているエネルギー活動量や市の人口等で案分し、算出しているため実績年度が3年前のものになります。



柏崎市の温室効果ガス排出量 (単位: 千 t-CO<sub>2</sub>)

※柏崎市の各分野の活動から排出された温室効果ガス (主に二酸化炭素量) の推計値。

本市の特徴として、産業分野からの温室効果ガス排出量割合が多い。事業所等における再エネ設備導入や施設の省エネ化を継続的に推進する必要がある。

市民や事業者に対して、低炭素型省エネ・創エネ設備機器設置の補助金や、啓発事業を行っている。公共施設においては、再生可能エネルギーの導入検討などを行い、温室効果ガスの削減目標達成に向けて、柏崎市地球温暖化対策実行計画を中心に引き続き取組を推進していく。

【施策方針】 令和3(2021)年度の取組・実績

○再生可能エネルギー・次世代エネルギーの利活用・産業化の促進

令和元(2019)年度から設立準備を進めてきた地域エネルギー会社「柏崎あい・あーるエナジー株式会社」を、市及び民間事業者合わせて9者による共同出資で設立した。また、会社の設立を機に、積極的かつ継続的に脱炭素エネルギーの利活用を推進するため、脱炭素エネルギー利活用の促進に関する条例を制定した。(電源エネルギー戦略室)

○建築物の省エネ改修や高効率機器の普及促進

・家庭や事業者に対して、創エネ・省エネ機器設置の補助金を23件交付した。(環境課)

区分(単位:件)	年度	H30(2018)	R元(2019)	R2(2020)	R3(2021)
燃料電池設備		9	11	12	<b>13</b>
ガス発電・給湯暖房設備		0			
地中熱ヒートポンプ空調・給湯設備		0	0	0	<b>0</b>
木質バイオマスストーブ		9	7	4	<b>4</b>
HEMS+蓄電池		0	2	5	<b>2</b>
太陽光発電設備+HEMS+蓄電池		5	2	6	<b>4</b>

- ・市営半田住宅A号棟の照明をLED化し、断熱性の高い建具に改修した。(建築住宅課)
- ・消防本部・署の空調を地中熱利用空調に改修した。(建築住宅課)

○次世代自動車の普及促進、公共交通機関の利用促進

・市内ディーラーを訪問し、電気自動車購入検討者に補助金の周知を行うよう依頼することで、補助金活用を促した。結果、電気自動車4件、PHV4件を交付した。(環境課)

区分	H30(2018)年度	R元(2019)年度	R2(2020)年度	R3(2021)年度
交付件数	11	15	2	<b>8</b>

- ・路線バス等の利用促進事業を以下のとおり実施した。(企画政策課)
  - ・路線バス高齢者割引制度の実施(8,697綴り)
  - ・高校生等路線バス通学割引キャンペーンの実施(回数券販売数量:500綴り)
  - ・園児による市街地循環バス車内音声アナウンス収録することで、地域の公共交通として市民の愛着を高め、より一層の利用促進に努めた(柏崎保育園・比角保育園)



## 取組の方向性(2)温暖化対策に関する意識の醸成

### 【目標指標】環境教育受講者数

基準値 H29(2017)年度	目標値 R10(2028)年度	実績 R3(2021)年度	前年度実績 R2(2020)年度
744 人	現在値より増加	<b>558 人</b>	409 人

### 【目標指標】ECO2 プロジェクト参加登録事業者数

基準値 H29(2017)年度	目標値 R3(2021)年度	実績 R3(2021)年度	前年度実績 R2(2020)年度
234 事業者	300 事業者	<b>230 事業者</b>	232 事業者

### 【施策方針】令和 3(2021)年度の取組・実績

#### ○市民・事業者に向けた温暖化対策の意識啓発の推進

- ・市内小中学校 3 校 104 人に対して、環境教育プログラムを実施し、温暖化の基礎知識や私たちにできることに関する授業を行い、「温暖化対策を実践する」きっかけとなるよう行動を促した。（環境課）
- ・市内保育園 7 園 441 人に対して、エコ教室を実施し、簡単なクイズを行うことで環境保全に対する意識の醸成を図った。（環境課）
- ・地球温暖化に関する問題や市の取組を話すふれあい講座を 1 件 13 人に実施し、温暖化問題の理解促進に努めた。（環境課）
- ・ECO2 プロジェクトの登録事業者について、登録事業者間での合併があり、登録事業者数は 2 社減少した。活動実績として、地域の海岸清掃に 14 事業者が参加し、きれいな海の保全に努めることやノーマイカーウィークを実施し、車から排出される二酸化炭素を 7.6 t 削減した。（環境課）  
環境活動によって貯めたポイントで 13 件の対象設備・物品について、483,029 ポイント分の購入補助を行った。（環境課）



エコ教室の様子

●基本目標 2 資源の有効活用

取組の方向性(1)廃棄物の発生抑制・再使用・再生利用(3R)活動の推進

【目標指標】ごみの総排出量

基準値 H29(2017)年度	目標値 R7(2025)年度	実績 R3(2021)年度	前年度実績 R2(2020)年度
28,683 t	24,712 t	<b>26,732 t</b>	26,777 t

【目標指標】1人1日当たりのごみの排出量

基準値 H29(2017)年度	目標値 R7(2025)年度	実績 R3(2021)年度	前年度実績 R2(2020)年度
928 g	869 g	<b>919 g</b>	905 g

【目標指標】リサイクル率

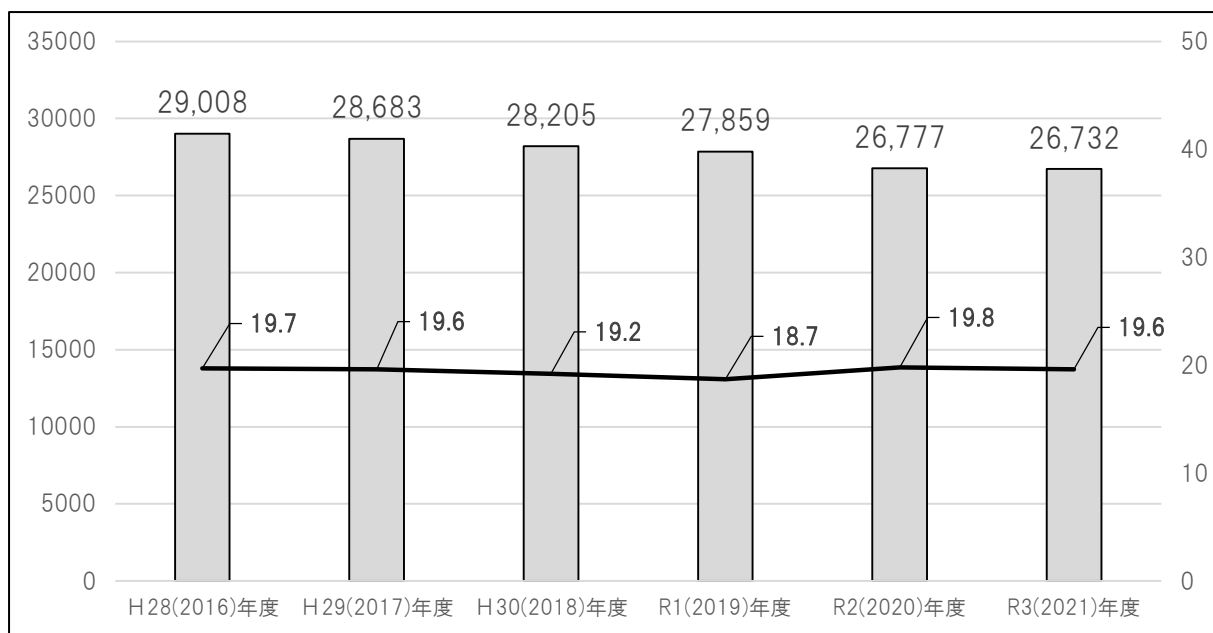
基準値 H29(2017)年度	目標値 R7(2025)年度	実績 R3(2021)年度	前年度実績 R2(2020)年度
19.6%	23.1%	<b>19.6%</b>	19.8%

ごみの排出量とリサイクル率の推移

区分 \ 年度	H29(2017)	H30(2018)	R元(2019)	R2(2020)	R3(2021)
燃やすごみ (t)	22,036	21,757	21,494	20,413	<b>20,379</b>
燃やさないごみ (t)	661	637	666	583	<b>591</b>
粗大ごみ (t)	375	396	479	472	<b>514</b>
資源物 (t)	5,611	5,415	5,220	5,309	<b>5,248</b>
合計	28,683	28,205	27,859	26,777	<b>26,732</b>
リサイクル率	19.6%	19.2%	18.7%	19.8%	<b>19.6%</b>
年度末住民基本台帳人口(人)	84,671	83,504	82,284	81,071	<b>79,668</b>
年度末世帯数(世帯)	34,817	34,800	34,785	34,884	<b>34,800</b>
1日当たり排出量 (t)	79	77	76	73	<b>73</b>
1人1日当たり排出量(g)	928	925	925	905	<b>919</b>

※燃やさないごみ、粗大ごみは、施設再回収金属を除く

※資源物は、施設再回収金属を含む



ごみの総排出量とリサイクル率の推移 (単位：t、%)

ごみ・資源物全体の排出抑制と分別の徹底を、広報・ホームページ・ふれあい講座等で啓発を行った。

ごみの総排出量は減少傾向にあるが、リサイクル率は、ペットボトルやプラスチック製容器包装の軽量化や新聞・雑誌等の減少により横ばい状態が続いている。(環境課)

【施策方針】令和3(2021)年度の取組・実績

○廃棄物の循環的利用の促進

- ・町内会に対し、資源物ステーションの補助を2件行った。(環境課)
- ・リサイクル意識の向上により、資源物リサイクルセンターの利用者数及び回収量が増加した。

区分	年度	H29(2017)	H30(2018)	R元(2019)	R2(2020)	R3(2021)
利用者数(人)	松波	176,574	166,918	166,439	150,004	<b>150,191</b>
	西本町	-	12,402	30,022	35,775	<b>45,562</b>
	合計	176,574	179,320	196,461	185,779	<b>195,753</b>
回収量(kg)	松波	987,932	909,773	908,694	729,251	<b>744,681</b>
	西本町	-	74,127	162,121	190,029	<b>238,327</b>
	合計	987,932	983,900	1,070,815	919,280	<b>983,008</b>

○3Rに関する意識啓発の推進

- ・町内会等が開催するふれあい講座を1回13人、小学生等の見学时において19回729人に3Rの意識啓発を行った。(環境課)
- ・地産地消をテーマに2月23日に料理講習会を開催し、20人が参加した。(市民活動支援課)
- ・市消費者協会の視察研修として、11月4日に十日町市松代再生古民家(ドイツ人建築デザイナーのカールベクスさんが経営するカフェ「澁い」と自宅のある竹所集落)の見学を行い、23人が参加した。(市民活動支援課)



## 取組の方向性(2)廃棄物の適正処理の推進

### 【目標指標】最終処分埋立量累計（埋立率）

基準値	目標値	実績	前年度実績
H29(2017)年度	R10(2028)年度	R3(2021)年度	R2(2020)年度
49,666 m <sup>3</sup> 48.7%	75,593 m <sup>3</sup> 74.1%	<b>約 58,910 m<sup>3</sup></b> <b>(57.8%)</b>	約 56,307 m <sup>3</sup> 55.2%

埋立最大容量 102,000 m<sup>3</sup>として計算。

### 【目標指標】廃棄物処理施設処理基準達成率（排出ガス基準・水質基準）

基準値	目標値	実績	前年度実績
H29(2017)年度	R10(2028)年度	R3(2021)年度	R2(2020)年度
排出ガス 100% 水質 100%	排出ガス 100% 水質 100%	<b>排出ガス 100%</b> <b>水質 100%</b>	排出ガス 100% 水質 100%

### 【施策方針】令和 3(2021)年度の取組・実績

#### ○廃棄物の処理過程の適正管理

- ・当初の予定では、埋立期間は平成 14（2002）年度～平成 28（2016）年度の 15 年間であったが、ごみの減量化に伴う埋立物の減少等で大幅な延命が図られている。（環境課）
- ・廃棄物の排出、分別ルールについて、市ホームページや、LINE など SNS を活用した周知を行った。また、窓口等において、各戸配布の分別ガイドブックの活用を促し、適正な分別となるよう努めた。
- ・多様化する廃棄物の品目に柔軟に対応できるよう、家庭ごみ、資源物の種類に応じて収集日を決め、収集カレンダーを作成し各戸へ配布した。また、市内を 17 地区に分割し柔軟でスムーズな収集となるよう努めた。
- ・廃棄物処理施設（ごみ処理場、最終処分場及びし尿処理場）の定期修繕（オーバーホール）を実施し、適正な廃棄物処理が行えるよう処理性能の維持に努めた。（環境課）

#### ○廃棄物エネルギーの有効活用

- ・エネルギー回収型廃棄物処理施設（新ごみ処理場）の新設に向けて、生活環境影響調査と令和 4（2022）年度から 3 か年で実施する「新ごみ処理場建設・運営に係る事業者選定アドバイザー業務」の受託者選定の準備を行った。（環境課）



クリーンセンター見学の様子

●基本目標3 美しい自然と生活環境の維持保全  
取組の方向性(1)美しい自然環境の維持保全

【目標指標】造林※事業面積（累計）

基準値 H29(2017)年度	目標値 R10(2028)年度	実績 R3(2021)年度	前年度実績 R2(2020)年度
292.3ha	1,069.3ha	<b>599.1ha</b>	518.9ha

※造林とは、下草刈りや伐採など含め、人の手が入った森林

【施策方針】令和3(2021)年度を取組・実績

○森林河川・里地里山や生物多様性の維持保全
<ul style="list-style-type: none"> <li>・間伐等の森林整備を実施した。（市有林 11.49ha、民有林 68.71ha）（農林水産課）</li> <li>・有害鳥獣対策について、交付金を活用し、電気柵を 91,410m設置した。また、柏崎市有害鳥獣被害対策協議会が主催となり、農業者を中心に鳥獣の対策に関する講習会を 4 か所で実施した。（農政課）</li> </ul>
○自然環境に関する市民学習の推進
<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内の小学生を対象として、さけ学習を実施した。（6団体 265人）（農林水産課）</li> </ul>

## 取組の方向性(2)不法投棄の防止と環境美化の推進

### 【目標指標】クリーンデー柏崎の参加率

基準値	目標値	実績	前年度実績
H29(2017)年度	R10(2028)年度	R3(2021)年度	R2 (2020)年度
前年度末人口の 28.4%	前年度末人口の 31.0%	<b>20,354 人</b> <b>(25.5%)</b>	- 人 - %

※令和 2(2020)年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止とした。

### 【施策方針】令和 3(2021)年度を取組・実績

#### ○不法投棄対策

- ・不法投棄防止のため、啓発看板の設置及び広報かしわざき等で啓発を行った。
- ・警察等関係機関と連携し、指導や回収作業を実施した。(環境課)

#### (1) 不法投棄回収等職員出動件数(単位:件)

年 度	H29(2017)年度	H30(2018)年度	R 元(2019)年度	R2(2020)年度	R3(2021)年度
件 数	50	75	59	45	<b>28</b>

#### (2) 令和 3 (2021) 年度撤去した不法投棄の種類とその数量

家庭ごみ(袋)	空き缶・空き瓶(袋)	テレビ(台)	廃家電(台)	家具類(台)	布団・カーペット(枚)
<b>45</b>	<b>28</b>	<b>0</b>	<b>13</b>	<b>17</b>	<b>12</b>
自転車(台)	金属くず(kg)	廃プラスチック(袋)	タイヤ(本)	その他(袋)	
<b>0</b>	<b>92</b>	<b>9</b>	<b>10</b>	<b>5</b>	

#### ○環境美化の推進

- ・クリーンデーについて、約 25.5%<sup>※1</sup>の市民、272 町内会<sup>※2</sup>が参加した。
- ※1 令和 3(2021)年度末人口 79,668 人
- ※2 6月6日は、190 町内会、6月6日以外は、82 町内会が実施(環境課)
- 回収量: 燃やすごみ 61.74 t、燃やさないごみ 2.29 t、側溝汚泥 144.5 t



不法投棄

### 取組の方向性(3)公害防止対策の推進

#### 【目標指標】環境基準の達成率（水質）

※国の示す水質汚濁に係る「環境基準」とは異なりますが、本市の基本計画では、海水浴場の水質調査を一つの指標として設定しています。

基準値 H29(2017)年度	目標値 R10(2028)年度	実績 R3(2021)年度	前年度実績 R2(2020)年度
100%	100%	<b>100%</b>	100%

海水浴場開設前の水質調査結果により、「適している」と判断されたものを掲載。

#### (1) 海水浴場測定結果（開設前）

海水浴場	石地	大崎	長浜	高浜	中央	番神	東の輪	鯨波	薬師堂	笠島	米山
判定	AA	AA	AA	AA	AA	AA	AA	AA	AA	A	AA

#### (参考) 水浴場の水質の判定基準

区分		COD	ふん便性大腸菌群数	油膜の有無	透明度
適	水質AA	2mg/L以下 (湖沼は3mg/L以下)	不検出 (検出限界2個/100mL)	認められない	全透(1m以上)
	水質A	2mg/L以下 (湖沼は3mg/L以下)	100個/100mL以下	認められない	全透(1m以上)
可	水質B	5mg/L以下	400個/100mL以下	常時は認められない	1m未満～50cm以上
	水質C	8mg/L以下	1,000個/100mL以下	常時は認められない	1m未満～50cm以上
不適		8mg/L超	1,000個/100mLを超えるもの	常時認められる	50cm未満

#### (2) 河川水質評価基準

No.	河川名	測定地点	類型	pH	D0 (mg/L)	BOD (mg/L)	SS (mg/L)	大腸菌群数 (MPN/100mL)
1	鯖石川	山根橋	A類型	7.3	10.8	0.8	29.9	$7.2 \times 10^4$
2		天保橋	B類型	7.3	10.7	1.1	25.4	$3.7 \times 10^4$
3		安政橋	C類型	7.4	9.9	1.3	36.2	-
4	鵜川	野田大橋	A類型	7.5	10.8	0.8	13.2	$3.2 \times 10^4$
5		八坂橋	B類型	7.3	9.9	0.7	6.6	$4.1 \times 10^4$

※令和3(2021)年度から、鯖石川の測定地点「なごみ橋」及び鵜川の測定地点「御幸橋」は、観測地点から除外された。

(参考)

項目		pH	D0 (mg/L)	BOD (mg/L)	SS (mg/L)	大腸菌群数 (MPN/100mL)
類型						
A	鯖石川：安田より上流	6.5 以上	7.5mg/L 以上	2mg/L 以下	25mg/L 以下	1,000 以下
	鵜川：新道より上流	8.5 以下				
B	鯖石川：安田～中田	6.5 以上	5 mg/L 以上	3mg/L 以下	25mg/L 以下	5,000 以下
	鵜川：新道～河口	8.5 以下				
C	鯖石川：中田～河口	6.5 以上 8.5 以下	5 mg/L 以上	5mg/L 以下	50mg/L 以下	—

(3) 主要河川水質調査 新潟県調査分

参考 河川水質調査



【目標指標】環境基準の達成率（騒音）

基準値 H29(2017)年度	目標値 R10(2028)年度	実績 R3(2021)年度	前年度実績 R2(2020)年度
100%	100%	100%	100%

環境騒音 13 か所及び北陸自動車道沿道 10 か所を測定による状況把握を行った。全ての地点で昼夜とも環境基準を達成した。（環境課）

(1) 環境騒音測定結果（上段：昼 下段：夜）

番号	測定地	環境基準	環境基準	測定値	番号	測定地	環境基準	環境基準	測定値
		法区域区分	(dB)	R3 年度			法区域区分	(dB)	R3 年度
1	宮場町	A	55	48	8	米山台 1 丁目	B・幹線	70	65
	枇杷島コミセン	2	45	39		トップリアクミ	2	65	63
2	北園町	A	55	42	9	桜木町	B	65	63
	公営住宅集会所	2	45	37		K 宅	2	60	52
3	新赤坂 2 丁目	A・幹線	70	68	10	三和町	C	60	56
	K 宅	1	65	64		柏崎総合庁舎	4	50	49
4	松波 2 丁目	A・幹線	70	65	11	豊町	C	60	48
	S 宅	2	65	57		柏崎総合福祉センター	4	50	39
5	西本町 3 丁目	B	55	43	12	鏡町	C・幹線	70	58
	喬柏園	2	45	42		柏崎地域振興局	3	65	54
6	中央町	B	55	43	13	諏訪町	C・幹線	70	66
	旧柏崎市役所	2	45	38		太刀川薬品	3	65	56
7	両田尻	B 幹線	70	63					
	T 宅	2	65	55					

(2) 北陸自動車道の沿道騒音測定結果

調査地点			昼 間		夜 間	
環境基準類型	法区域区分	地点名	環境基準	測定結果	環境基準	測定結果
B に相当	未指定	南半田① H 宅	65	52	60	50
		南半田② K 宅		57		54
		下 方 T 宅		52		50
		西山町北野 I 宅		53		51
		藤 井 M 宅		55		53
		下田尻 U 宅		53		48
		茨 目 M 宅		49		49
		向陽町 T 宅		59		54
		米山町 T 宅		52		50
C 地域	3 種	上田尻 Y 宅	65	49	60	48



【施策方針】令和3(2021)年度の取組・実績

○大気・水質・騒音・振動・悪臭等の監視、指導

・苦情対応として現地調査、指導を20件実施した。(環境課)

過去5年間の公害苦情等種類別発生件数(単位:件)

年度 種別	H29(2017)	H30(2018)	R元(2019)	R2(2020)	<b>R3(2021)</b>	<b>R3(2021)年度 増減数</b>
大気	5	6	4	0	<b>0</b>	<b>0</b>
水質	1	2	0	4	<b>1</b>	<b>-3</b>
騒音	6	7	5	6	<b>11</b>	<b>5</b>
振動	1	1	0	1	<b>2</b>	<b>1</b>
悪臭	4	8	8	5	<b>6</b>	<b>1</b>
その他	0	3	3	5	<b>0</b>	<b>-5</b>
合計	17	27	20	21	<b>20</b>	<b>-1</b>

○地盤沈下対策

- ・地下水観測用井戸6本による調査を実施した結果、周辺家屋等への影響はないことが確認された。
- ・市内28km内の96測量点で地盤沈下監視用2級水準測量を実施した結果、R元(2019)~R3(2021)年度の最大沈下量は柏崎新橋で2.1cmであった。※この調査は隔年で実施している。

# 柏崎市地球温暖化対策実行計画 令和3（2021）年度報告

## 第1章 区域施策編（市域の温室効果ガス排出量）

### 1 温室効果ガスの削減目標

温室効果ガスの総排出量を、基準年度に比べてR3(2021)年度に12%削減する。

基準年度	H25(2013)年度 926千t-CO <sub>2</sub>
短期目標年度	R3(2021)年度 815千t-CO <sub>2</sub> (▲12%)
中期目標年度	R12(2030)年度 685千t-CO <sub>2</sub> (▲26%)

### 2 排出状況

H27(2015)年度	866千t-CO <sub>2</sub> (▲6.4%)
H28(2016)年度	853千t-CO <sub>2</sub> (▲7.8%)
H29(2017)年度	838千t-CO <sub>2</sub> (▲9.5%)
H30(2018)年度	783千t-CO <sub>2</sub> (▲15.4%)
R元(2019)年度	781千t-CO <sub>2</sub> (▲15.7%)

※国や県が公開しているエネルギー活動量や市の人口等で案分し、算出しているため、実績年度が3年前のものになります。

### 3 結果・講評

R元(2019)年度の排出量は、基準年度から15.7%削減となりました。毎年度排出量は基準年度から減少しており、H30(2018)年度で、短期目標を達成しました。

再生可能エネルギーの導入や省エネ化が進んだことありますが、排出割合の大きい産業部門では、新型コロナウイルスの影響により、経済活動が停滞していたこともあり、削減につながったのではないかと考えられます。

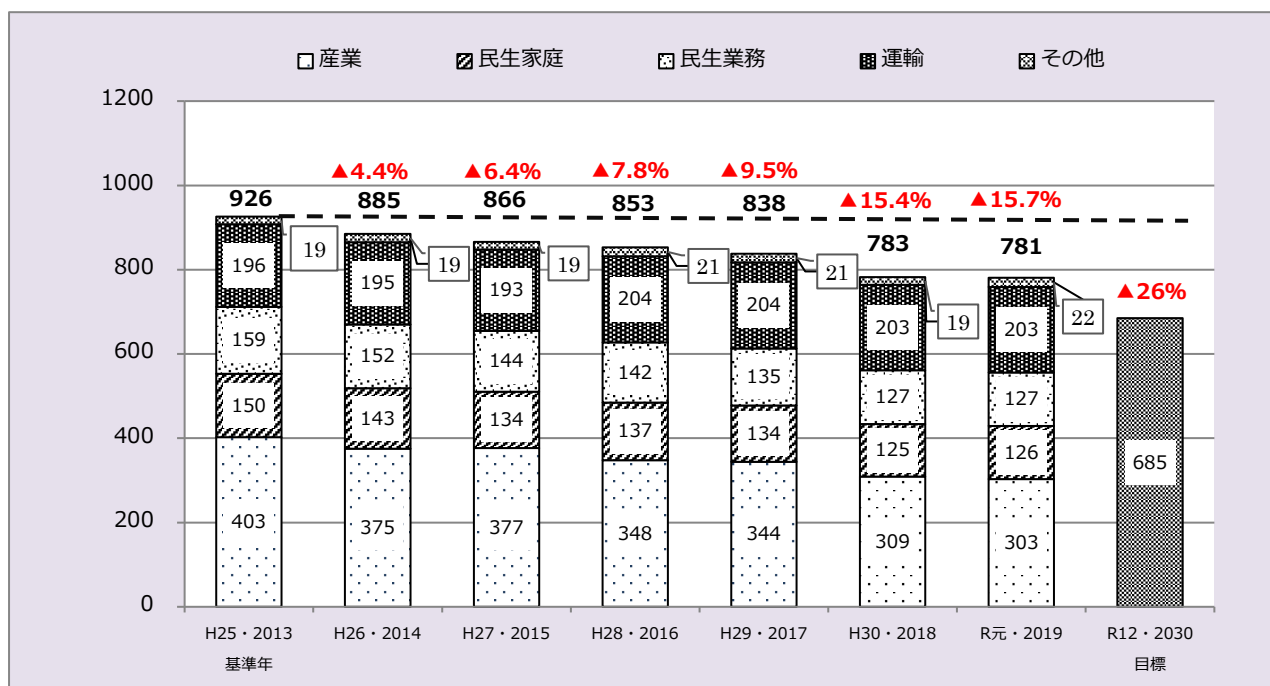


表1 柏崎市の温室効果ガス排出量・目標 (単位: 千t-CO<sub>2</sub>)

## 方針1 再生可能エネルギー・地域資源の有効活用 目標指標

### ■「柏崎市地域エネルギービジョン」の策定

年度計・累計	基準年度値 H27(2015)年度	目標値 R3(2021)年度	実績 R3(2021)年度	R2(2020)年度	R元(2019)年度
-	未策定	策定	策定済	策定済	策定済

### ■太陽光発電を設置した公共施設数 ( )内は年度計

年度計・累計	基準年度値 H27(2015)年度	目標値 R3(2021)年度	実績 R3(2021)年度	R2(2020)年度	R元(2019)年度
累計	14 施設	30 施設	29 施設 (1 施設)	28 施設 (3 施設)	25 施設 (2 施設)

### ■木質ペレットストーブを設置した公共施設数 ( )内は年度計

年度計・累計	基準年度値 H27(2015)年度	目標値 R3(2021)年度	実績 R3(2021)年度	R2(2020)年度	R元(2019)年度
累計	8 施設	15 施設	11 施設 (0 施設)	11 施設 (0 施設)	11 施設 (0 施設)

### ■造林事業面積 ( )内は年度計

年度計・累計	基準年度値 H27(2015)年度	目標値 R3(2021)年度	実績 R3(2021)年度	R2(2020)年度	R元(2019)年度
累計	162ha	720ha	599.1ha (80.2ha)	518.9ha (63.8ha)	455.1ha (77.9ha)

## 方針1 R3(2021)年度の取組実績等

施策	取組
再生可能エネルギーの導入・有効活用の推進	公共施設に太陽光発電設備(1 施設)及び地中熱空調設備(1 施設)を導入した。また、講演(2 回、合計約 170 名参加)及び広報かしわざき特集記事を通じ、市エネルギー政策の理解促進を図った。
再生可能エネルギーを活用した電力・熱供給事業(スマートコミュニティ)の推進	-
木質バイオマス資源の利活用事業の推進	補助金により木質ペレット・薪ストーブの購入を支援した。
バイオディーゼル燃料の利活用事業の推進	クリーンセンターの施設内車両に BDF を使用(使用量 1,200ℓ)
その他バイオマス資源・未利用エネルギーの有効活用	自然環境浄化センターにおける消化ガス発電事業
植樹活動や里山保全事業などによる森林保全の推進	柏崎地域森林組合及び農業振興公社の里山保全事業により、造林面積が増加した。 「緑の募金」植樹事業に 9 団体が植樹活動を実施した。

## 方針 2 家庭、事業所及び地域における省エネルギー普及の加速 目標指標

### ■EC02 プロジェクト参加登録事業者数 ( ) 内は新規参加登録者数

年度計・累計	基準年度値 H27(2015)年度	目標値 R3(2021)年度	実績 R3(2021)年度	R2(2020)年度	R元(2019)年度
累計	222 事業者	300 事業者	230 事業者 (-2 事業者)	232 事業者 (-1 事業者)	233 事業者 (-5 事業者)

### ■低炭素型創エネ・省エネ機器導入補助金補助件数 ( ) 内は年度計

年度計・累計	基準年度値 H27(2015)年度	目標値 R3(2021)年度	実績 R3(2021)年度	R2(2020)年度	R元(2019)年度
累計	61 件	200 件	185 件 (23 件)	162 件 (27 件)	135 件 (22 件)

区分(単位:件)	R3(2021)年度	R2(2020)年度	R元(2019)年度
燃料電池設備	13	12	11
地中熱ヒートポンプ空調・給湯設備	0	0	0
木質バイオマスストーブ	4	4	7
HEMS+蓄電池	2	5	2
太陽光発電設備+HEMS+蓄電池	4	6	2

表 2 炭素型創エネ・省エネ機器導入補助金交付内訳

### ■うちエコ診断受診世帯数 ( ) 内は年度計

年度計・累計	基準年度値 H27(2015)年度	目標値 R3(2021)年度	実績 R3(2021)年度	R2(2020)年度	R元(2019)年度
累計	未実施	50 世帯	13 世帯 (0 世帯)	13 世帯 (0 世帯)	13 世帯 (0 世帯)

### ■省エネ診断受診事業所数 ( ) 内は年度計

年度計・累計	基準年度値 H27(2015)年度	目標値 R3(2021)年度	実績 R3(2021)年度	R2(2020)年度	R元(2019)年度
累計	3 事業者	13 事業者	4 事業者 (0 事業者)	4 事業者 (0 事業者)	4 事業者 (0 事業者)

### ■エコアクション 21 取得事業所数

年度計・累計	基準年度値 H27(2015)年度	目標値 R3(2021)年度	実績 R3(2021)年度	R2(2020)年度	R元(2019)年度
年度計	23 事業者	30 事業者	14 事業者	14 事業者	18 事業者

### ■LED 街路灯の設置 ( ) 内は年度計

年度計・累計	基準年度値 H27(2015)年度	目標値 R3(2021)年度	実績 R3(2021)年度	R2(2020)年度	R元(2019)年度
累計	3,569 灯	12,523 灯 (市内全灯)	11,386 灯 (1,017 灯)	10,369 灯 (1,093 灯)	9,276 灯 (1,375 灯)

方針 2 R3(2021)年度の取組実績等

施策	取組
E02 プロジェクトの推進	月に 1 回 E02 通信を発行し対象行動への参加を促し、参加登録事業者は、427,925 ポイント分の活動を実践した。
低炭素型創エネ・省エネ機器、LED 照明の導入促進	23 件の低炭素型機器導入を補助し、地球環境に優しい機器の促進に努めた。
スマートハウス・ビルの普及啓発	補助金により HEMS を含む低炭素型創エネ省エネ機器の導入を支援し、市内建物の省エネ化を進めた。
建築物の省エネ改修、設備導入支援	市営半田住宅 A 号棟の照明を LED 化し、断熱性の高い建具へ改修。また消防本部・署の空調を地中熱利用空調に改修した。
うちエコ診断・省エネ診断受診の推進	毎年度イベントスペースにおいて実施していたが、新型コロナウイルスの影響により中止となったため、実施しなかった。
環境経営システムの導入支援	E02 プロジェクトにおける対象行動として周知を行うことで、システムの認知向上を行った。

### 方針3 低炭素型交通の推進 目標指標

#### ■電気自動車等普及台数 ( )内は年度計

年度計・累計	基準年度値 H27(2015)年度	目標値 R3(2021)年度	実績 R3(2021)年度	R2(2020)年度	R元(2019)年度
累計	129台	200台	235台 (15台)	220台 (6台)	214台 (20台)

#### ■ノーマイカーウイーク参加事業者数

年度計・累計	基準年度値 H27(2015)年度	目標値 R3(2021)年度	実績 R3(2021)年度	R2(2020)年度	R元(2019)年度
年度計	125事業者	150事業者	29事業者	—	83事業者

※年2回(春・秋)実施していたものの、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から秋の実施は中止とした。

#### ■ノーマイカーウイーク参加者数

年度計・累計	基準年度値 H27(2015)年度	目標値 R3(2021)年度	実績 R3(2021)年度	R2(2020)年度	R元(2019)年度
年度計	5,212人	6,000人	1,180人	—	5,853人

※年2回(春・秋)実施していたものの、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から秋の実施は中止とした。

#### ■エコドライブ講習会実施回数

年度計・累計	基準年度値 H27(2015)年度	目標値 R3(2021)年度	実績 R3(2021)年度	R2(2020)年度	R元(2019)年度
年度計	1回	5回	0回	—	2回

※市の行うイベントで実施していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止とした。

#### ■エコドライブモニター実施者数

年度計・累計	基準年度値 H27(2015)年度	目標値 R3(2021)年度	実績 R3(2021)年度	R2(2020)年度	R元(2019)年度
年度計	11人	30人	119人	—	350人

※年2回(春・秋)実施していたものの、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から秋の実施は中止とした。



方針3 R3(2021)年度の取組実績等

施策	取組
電気自動車等導入促進	市内ディーラーを訪問し、電気自動車購入検討者に補助金の周知を行うよう依頼することで、合計8台(電気自動車4台、PHV4台)の補助を行った。(昨年度より6台増加した)
電気自動車等に関する技術開発・製品開発研究・開発支援	-
公共交通ネットワークの再構築	高柳地域内交通を令和3(2021)年8月から予約型ドアツードア運行(一部定時定路線)に再編した。 これにより、運行の効率化が図られた。また、燃料の使用量削減につながった。
ノーマイカーの普及啓発促進	令和3(2021)年5月17日から23日まで通勤時にノーマイカーを実践する「ノーマイカーウィーク」を実施し、29事業者1,180人が参加し、7.6tのCO <sub>2</sub> 削減に寄与した。
エコドライブの普及啓発促進	ノーマイカーウィークと同期間にエコドライブを実践する「エコドライブモニター」を行い、13事業者119人が参加し、0.29tのCO <sub>2</sub> 削減に寄与した。 燃費だけでなく燃料費の節約になるため、継続的に実施したいという声も多くあり、エコドライブの普及につながった。

## 方針4 地域力発揮のための社会環境整備 目標指標

### ■環境リーダー養成講座受講者数 ( )内は年度計

年度計・累計	基準年度値 H27(2015)年度	目標値 R3(2021)年度	実績 R3(2021)年度	R2(2020)年度	R元(2019)年度
累計	2人	7人	12人(0人)	12人(5人)	7人(1人)

### ■地球温暖化防止活動推進員数

年度計・累計	基準年度値 H27(2015)年度	目標値 R3(2021)年度	実績 R3(2021)年度	R2(2020)年度	R元(2019)年度
年度計	2人	5人	3人	3人	2人

### ■環境教育プログラム実施校数

年度計・累計	基準年度値 H27(2015)年度	目標値 R3(2021)年度	実績 R3(2021)年度	R2(2020)年度	R元(2019)年度
年度計	未実施	32校(全校)	3校	8校	4校

### ■ふれあい講座・エコ教室・エネルギー関連施設見学会の実施回数

年度計・累計	基準年度値 H27(2015)年度	目標値 R3(2021)年度	実績 R3(2021)年度	R2(2020)年度	R元(2019)年度
年度計	5回	10回	8回	3回	4回

### ■ふれあい講座・エコ教室・エネルギー関連施設見学会の受講者数

年度計・累計	基準年度値 H27(2015)年度	目標値 R3(2021)年度	実績 R3(2021)年度	R2(2020)年度	R元(2019)年度
年度計	350人	600人	454人	182人	381人

### 方針4 R3(2021)年度の取組実績等

施策	内容
環境リーダーの養成	R3(2021)年度は参加者が0人だった。
地球温暖化防止活動推進員の増員	推進員の委嘱期間は2年。R2(2020)年度の実績を継続している。
小中学生向け環境教育プログラムの実施	小学校2校、中学校1校に実施した。 学年に合った地球温暖化に関する授業を実施し、私たちにできることを一人一人が考え、実践するきっかけを作ることができた。
ふれあい講座・エコ教室・エネルギー関連施設見学会の実施	ふれあい講座を1回13人、保育園児に向けたエコ教室を7園441人で実施した。
環境・エネルギー産業事業化への調査・研究・支援	市及び民間事業者合わせて9者による共同出資で、地域エネルギー会社「柏崎あい・あーるエナジー株式会社」を設立したほか、地域エネルギー会社と連携する再生可能エネルギー発電の導入促進施策調査を実施した。
地場産農作物の積極的利用	「食の地産地消フェア」を開催した。 (18店舗参加。料理提供数1,261食、持ち帰り総菜販売数427食) 学校給食での地場産農産物供給量 235,343kg 学校給食での地場産農産物使用割合 46.7%

## 第2章 事務事業編（市の事業からの温室効果ガス排出量）

### 1 温室効果ガスの削減目標

市の業務から発生する温室効果ガス総排出量を、基準年度に比べてR3(2021)年度に19%削減する。

基準年度	H25(2013)年度 36,914 t-CO <sub>2</sub>
短期目標年度	R3(2021)年度 29,900 t-CO <sub>2</sub> (▲19%)
中期目標年度	R12(2030)年度 22,148 t-CO <sub>2</sub> (▲40%)

### 2 実施状況

R元(2019)年度	35,763 t-CO <sub>2</sub> (▲3.1%)
R2(2020)年度	32,987 t-CO <sub>2</sub> (▲10.6%)
R3(2021)年度	30,125 t-CO <sub>2</sub> (▲18.4%)

### 3 結果

R3(2021)年度の温室効果ガス排出量は、基準年度から18.4%削減となりましたが、目標である▲19%にはわずかに及びませんでした。

事務事業編は、市の業務から排出される温室効果ガス排出量が対象であるため、家庭から搬出されるごみの焼却や公共施設の電気の使用における二酸化炭素排出量も対象となります。

市内施設のLED化や再エネ・省エネ設備の導入を定期的に進めています。柏崎市役所庁舎の新設では、太陽光パネルの設置や雨水の利用、断熱性能に優れたガラスを取り入れるなど環境に配慮した設備を導入しています。

今後も施設の環境整備を順調に整えることができる方針及び施策の検討や職員に対して、環境に配慮した行動の呼びかけなど温暖化対策への啓発を継続していきます。

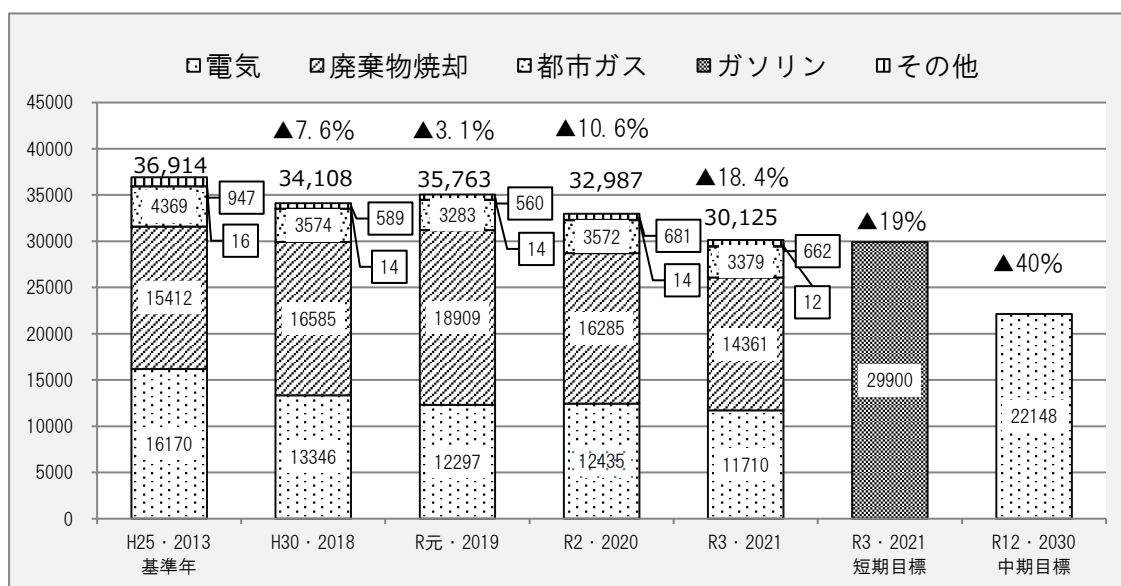


表3 柏崎市の事業からの温室効果ガス排出量・目標 (単位: t-CO<sub>2</sub>)

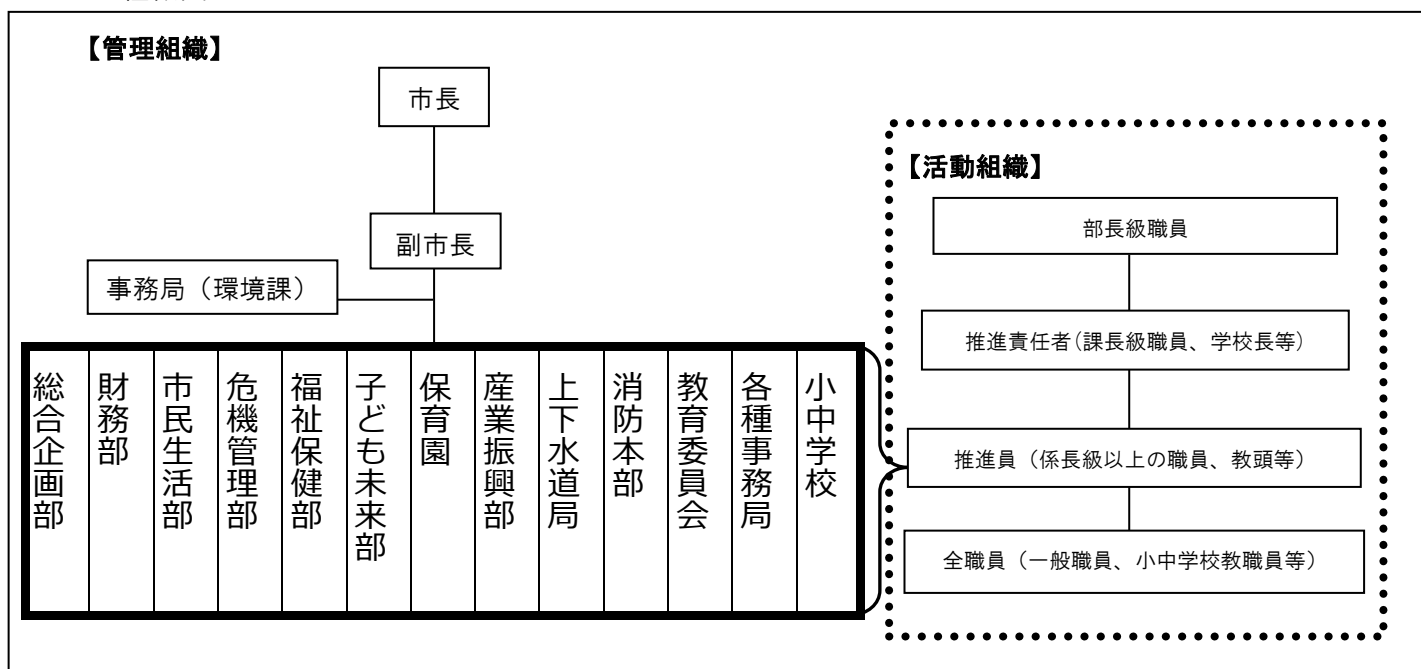
# 環境マネジメントシステム（かしエコ）編 令和3（2021）年度報告

## 1 柏崎市の取組

柏崎市は、業務における環境負荷の低減を図るため、平成19(2007)年3月に環境省が推進する環境マネジメントシステム「エコアクション21」の認証を受け、本庁舎だけでなく保育園や小中学校等関連施設が一体となって取り組む環境政策に12年間継続して力を入れてきました。

令和元(2019)年度からは、これまで培った環境意識や省エネのノウハウを活かしながら、取組を推進するための独自の環境マネジメントシステム「かしわざきエコシステム（かしエコ）」を策定し、各所属におけるエネルギー管理や省エネ行動の推進を展開しています。

## 2 組織図



### 3 環境取組方針

全職員が業務全般において環境への影響に配慮し、効果的に環境対策を展開していくため、以下に本市の事務事業に対する環境取組方針を定めています。

## 【基本理念】

柏崎市は、美しい海と山々に恵まれた自然豊かなまちです。私たちはこの豊かな自然から多くの恩恵を受け、数多くの産業や文化を生み、育んできました。

このかけがえのない柏崎の自然環境を将来世代に引き継いでいくことは、私たちに課せられた重要な責務です。

地球温暖化を始めとした地球規模での環境問題が一層深刻化する中、まずはこの柏崎地域における取り組みから着実に進めて行くことが重要であると考え、市自らが率先して環境への負荷低減に努めてきました。

今後もこの環境取組方針の下、職員一人一人が環境への影響を配慮した業務を推進し、継続的な省エネ・省資源行動を実践することで、「力強く 心地よいまち」の実現を目指して行きます。

### 【環境取組方針】

#### (1) 地球温暖化対策に取り組みます

公共施設の改修時等において、施設の規模や用途に合った再生可能エネルギー・次世代エネルギー設備や省エネルギー設備の導入を検討し、温室効果ガス排出量の削減に努めます。

#### (2) 環境に配慮した事務事業を推進します

業務全般において省エネ行動や省資源の取組を実践し、エネルギー使用量の削減に取り組みます。また、グリーン購入を推進し、環境負荷の低減に努めます。

#### (3) 廃棄物の排出量の削減に努めます

3 R (Reduce<sup>リデュース</sup> : ごみを減らす、Reuse<sup>リユース</sup> : 繰り返し使う、Recycle<sup>リサイクル</sup> : 資源に再生) を推進し、廃棄物の排出量削減に取り組みます。

#### (4) 職員の環境意識向上を図ります

職員に対して環境教育を実施し、環境意識の向上を図ります。

#### (5) 環境関連法令を遵守します

環境関連法令等を遵守し、環境保全に努めます。

#### 4 環境目標

効果的に環境対策を展開していくために、以下のとおり目標を策定します。

##### (1) 温室効果ガス削減量

市の業務から排出される温室効果ガスは、柏崎市地球温暖化対策実行計画事務事業編に基づき、以下のとおりとします。

項目	年度	削減目標
基準年度	H25(2013)年度	36,914 t-CO <sub>2</sub>
短期目標年度	R3(2021)年度	-19% (29,900 t-CO <sub>2</sub> 以下)
中期目標年度	R12(2030)年度	-40% (22,148 t-CO <sub>2</sub> 以下)

参考：柏崎市地球温暖化対策実行計画事務事業編 温室効果ガス削減量

##### (2) エネルギー使用量（市役所全体）

保有する施設全体の年度内エネルギー使用量が原油換算値 1,500kl 以上である事業者は、「特定事業者」として各施設におけるエネルギー使用量の把握義務が生じます。

目標は、国が（努力）義務として進める以下のとおりとします。

削減目標
5年間の平均エネルギー消費原単位※-1% または電気需要平準化評価原単位-1%の努力義務
対象
市長部局及び教育委員会部局

※エネルギー消費原単位：エネルギーをどれだけ効率よく使用しているか示す数値

##### (3) エネルギー使用量（各所属）

###### ア 電気・化石燃料・水

削減目標	
前年度使用実績-1%	
項目	種類
電力	電気（再生可能エネルギー使用量は除く）
化石燃料	ガソリン、灯油、軽油、A重油、液化石油ガス、都市ガス、BDF
水	水道

###### イ 廃棄物

削減目標	
前年度使用実績-1.5%	
項目	種類
廃棄物	可燃ごみ、不燃ごみ（資源物は除く）



## 5 実績

### (1) 温室効果ガス削減量

令和 2(2020)年度実績は以下のとおりです。

基準年度	H25(2013)年度 36,914 t-CO <sub>2</sub>
短期目標年度	R3(2021)年度 29,900 t-CO <sub>2</sub> (▲19%)
中期目標年度	R12(2030)年度 22,148 t-CO <sub>2</sub> (▲40%)
H30(2018)年度実績	34,108 t-CO <sub>2</sub> (▲7.6%)
R元(2019)年度実績	35,763 t-CO <sub>2</sub> (▲3.1%)
R2(2020)年度実績	32,987 t-CO <sub>2</sub> (▲10.6%)
R3(2021)年度実績	30,125 t-CO <sub>2</sub> (▲18.4%)

### (2) エネルギー使用量(市役所全体)

令和 3(2021)年度実績は、以下のとおりです。

市長部局では、省エネ法に基づく S クラス基準を達成することができました。

教育委員会部局では、かねてより経済産業省から指摘を受けていた内容(報告する施設毎の分類)の見直しを行った影響が現れたことにより、前年度比では改善が図れたものの、5 年度間の平均では、1%以上の改善が図れませんでした。

項目	市長部局	教育委員会部局
クラス	S クラス	A クラス
エネルギー消費原単位対前年度比	81.6%(達成)	99.9%(達成)
5 年度間の平均エネルギー消費原単位	91.5%(達成)	104.5%(未達成)
電気需要平準化評価原単価	81.9%(達成)	100.0%(達成)

#### ※参考

保有する施設全体の年度内エネルギー使用量が原油換算値 1,500kI 以上である事業者は、省エネ法に基づき「特定事業者」として各施設におけるエネルギー使用量の経産省への把握義務が生じます。

定期報告の結果は、S・A・B・C の 4 段階へクラス分けされます。

#### 【評価段階】

クラス	水準
S クラス	努力目標達成(5 年間の平均原単位について年 1%以上の低減を達成)
A クラス	B クラスよりは省エネ水準は高いが、S クラスの水準には達しない事業者
B クラス	努力目標未達成かつ 2 年連続で対前年度比増加、または 5 年間平均原単位が 5%超増加
C クラス	B クラスの事業者の中で特に判断基準遵守状況が不十分

(3) エネルギー使用量及び二酸化炭素排出量（職員が常駐している所属）

令和3(2021)年度実績は以下のとおりです。

ア 電気・化石燃料・水

項目	単位	R3(2021)目標 (R2実績-1%)	R3(2021) 実績	達成状況 (%)	R4(2022)目標 (R3実績-1%)	CO <sub>2</sub> 排出量 (kg)	
電気（再エネ使用量は除く）	kWh	15,080,879	<b>13,644,181</b>	○	13,507,739	<b>7,463,367</b>	
化石燃料	ガソリン	L	86,757	×	86,987	<b>203,995</b>	
	灯油	L	46,695	○	33,579	<b>84,521</b>	
	軽油	L	76,176	×	79,737	<b>211,370</b>	
	A重油	L	63,954	○	53,846	<b>147,377</b>	
	都市ガス	m <sup>3</sup>	737,042	<b>661,528</b>	○	654,913	<b>1,394,785</b>
	液化石油ガス(LPG)	m <sup>3</sup>	5,770	<b>11,570</b>	×	11,454	<b>34,733</b>
	天然ガス	m <sup>3</sup>	0	<b>131</b>	—	130	<b>0,353</b>
BDF	L	1,437	<b>1,200</b>	○	1,188	<b>3,149</b>	
合計						<b>9,543,650</b>	
水	千m <sup>3</sup>	117,833	<b>122,997</b>	×	121,767	—	

イ 再生可能エネルギー

項目	単位	R3(2021)実績	R2(2020)実績
太陽光発電	kWh	102,676	25,543
消化ガス発電	kWh	1,080,431	1,103,473

ウ 廃棄物（可燃ごみ・不燃ごみ）

項目	単位	R3(2021)目標 (R2実績-1.5%)	R3(2021) 実績	達成状況	R4(2022)目標 (R3実績-1.5%)
燃やすごみ(プラスチック)	kg	3,557	1,670	○	1,645
燃やすごみ(プラスチック以外)	kg	68,847	70,006	×	68,956
粗大ごみ、燃やさないごみ	kg	3,778	4,533	×	4,465

エ 産業廃棄物、資源物排出量

産業廃棄物		資源物	
種類	排出量[kg]	種類	排出量[kg]
感染性廃棄物	399	プラ製容器包装	3,808
アスファルト・コンクリート	17,810	紙類	86,477
廃プラスチック	370	ビン・缶類	1,925
木くず	190	せんてい枝	12,217
廃アルカリ	54	乾電池[個]	<b>【1,847】</b>
その他	4,682	蛍光管[本]	<b>【1,747】</b>

※資源物総量のうち、乾電池と蛍光管は個数での算出のため総量から除いています

## 6 その他の実績

### (1) グリーン購入の取組実績及び評価

グリーン購入とは、製品やサービスを購入する際に、グリーン購入法に基づいた環境負荷の少ない製品を選んで購入することです。

令和 3 (2021) 年度は、以下の特定調達品目について、環境物品の購入目標を 100%と定め、購入頻度が高い分野は毎月の購入実績を記録しています。その他の分野は、購入頻度が低いため調達目標を当面の間設定しないものとします。

グリーン購入特定調達品目 (22 分野)	
毎月の購入実績を記録	紙類、文具類、照明、制服・作業服、作業手袋、災害備蓄用品、ごみ袋、役務 (外注印刷のみ)
グリーン購入の努力	オフィス家具等、画像機器等、電子計算機等、オフィス機器等、携帯電話、家電製品、エアコン等、温水器等、自動車等、消火器、インテリア・寝装寝具、その他繊維製品、設備、役務、公共工事

年度 \ 項目	紙類	役務 (印刷)	文具類	照明	制服・作業服	作業手袋	災害備蓄用品	ごみ袋
R元(2019)	-	-	81.6%	62.1%	100.0%	34.0%	71.4%	-
R2(2020)	-	-	94.6%	49.3%	83.9%	80.8%	85.3%	83.8%
R3(2021)	64.4%	86.5%	91.3%	60.4%	90.5%	94.0%	71.2%	78.9%

※紙類、役務 (印刷) は、全国的な古紙不足により物品調達が困難になっている背景を踏まえ、R元(2019)年度から特定調達品目から除外していましたが、状況が改善されたことにより R3(2021)年度から復活しました。

※ごみ袋は、R2(2020)年度から新たに特定調達品目として追加されました。

### (2) 環境に対する職員の意識

職員個人が取り組むエコオフィス活動の評価を行っています。年 4 回の評価とし、「概ね達成できた」職員の人数を記録しています。

No	取組項目	割合
1	照明や空調など、使用しない場合は消している。	95.0%
2	運転時は、エコドライブを心掛けている。	94.5%
3	印刷時は、ページ数が必要最小限の量となるように考慮したり、ミスコピーがないようチェックしたりと紙使用の削減を意識している。	93.0%
4	設備や備品の購入時は、グリーン購入法対象物品や省エネ製品など環境に配慮した製品を購入するよう心掛けている。	91.0%
5	マニュアルやお知らせなど共通の資料は、係内で共有している。	94.0%
6	業務だけでなく、日常生活においても 3R を実践している。	93.3%
7	日常生活において、使い捨て製品 (レジ袋、紙コップ、割りばし等) の使用や購入を控える。	87.2%
8	普段の食事や宴会時など、食べ残しがないように意識したり呼び掛けたりしている。	94.1%
9	クリーンデーなど、地域の環境美化活動に積極的に参加している。	67.7%
10	庁内の環境活動 (ノーマイカーウィーク、緑のカーテンなど) に参加したり、家庭においても省エネ行動を意識したりしている。	80.3%

## 7 市の事業における環境活動の評価

地球温暖化を原因とする気候変動の深刻化は、世界規模の大きな課題です。

本市でも、ライフラインに大きな影響を与えた豪雪のように「これまでにない」記録的な災害が毎年のように発生していることから、気候変動の影響は私たちの身近な生活領域までに及んでいることを肌で感じているのではないのでしょうか。

また、ウクライナ・ロシア情勢による資源供給の不安は、エネルギー資源の多くを輸入に頼る我が国に対して危機感を増すものとなっています。

この気候変動の深刻化とエネルギー危機という2つの課題に直面する今、本市においても地球温暖化とエネルギー対策に向けた取組に注力しております。

これまで低炭素社会実現に向け、創エネ・省エネ設備や電気自動車の購入に対して補助金を交付し、市民や事業者の脱炭素化を支援してきましたが、深刻化する地球温暖化に対応すべく地球温暖化対策実行計画を令和4（2022）年1月に改訂し、本市に適した施策や目標の見直しを行い、低炭素社会から脱炭素社会実現に向けた取組へ強化いたしました。

さらに、低炭素なエネルギーを事業者や市民が利活用できる環境整備を進め、地域の環境・エネルギー産業の中核として、地域に持続可能なエネルギーによる産業を根付かせていくため、令和4（2022）年3月に地域エネルギー会社「柏崎あい・あーるエナジー株式会社」を設立しました。将来的には、柏崎地域への低炭素電力の供給事業を本格的に展開し、海底送電線と首都圏・地域送電網との接続実現を契機として、蓄電池等で安定化した低炭素エネルギーの首都圏への供給拠点となることを目指し、進めてまいります。

柏崎市は、エネルギーのまちとして、今後も国や他の自治体に先んじた地球温暖化対策やエネルギー施策に取り組み、2035年脱炭素社会実現を目指してまいります。

柏崎市長 櫻井 雅浩



柏崎市の環境 令和 4(2022)年度版  
令和 5(2023)年 3 月発行

編 集 柏崎市市民生活部環境課  
クリーンセンターかしわざき  
〒945-0011 柏崎市松波四丁目 13 番 13 号  
電話 0257-23-5170